

特集：卒業

時の流れ

渡辺 守（筑波大学 生命環境系）

卒業おめでとうございます。この文章が皆さんの目に触れている今、社会人として出発した方は、見るもの聞くもの目新しく、毎日があっという間に飛びすぎていることでしょう。そのまま大学院へ進学した方なら今までとほとんど変わらない日常が続いているかのように感じるかもしれません。他大学の大学院に進んでいたら、研究室のしきたりは異なっているでしょうし、研究器具の扱い方や実験方法も覚える必要がありますよね。いずれの境遇にいても、4年前のこの時期と比べると1日が短くなったと、多分、すべての人が感じていると思います。

4年前、皆さんのほとんどは未成年で、初めての一人暮らしとなった方も多かったはずです。入学時の顔合わせの時、「今晚の食事はどうしようか」などと心ここにあらずの皆さんに「これから年々早く過ぎ去って、卒業時に振り返ると、あっという間だったとなる」とお話ししましたが覚えていますか？その通りになったでしょう。「お酒を飲むようになった途端に早くなった」などとは言わないで下さいね。

皆さんの世代は特別です。学年の途中で大震災を経験し、

筑波大学もつくば市も、そして日本も大きく変わっていきました。その渦中であって、色々と思うところがあったに違いありません。それを契機に、筑波大学の学生生活だけでは出来なかった広い繋がりを作り出した方も沢山いたようです。

高校までがほぼ同じ年齢の集団内の人間関係であったのに対し、大学生活を通して知り合った人との関係は、多様な年齢であり、多様な世代であり、多様な社会からの人であり、そして、色々な国からの留学生であったかもしれません。その繋がり経験は皆さんの財産です。これからもずっと大切に育んで下さい。直接的な利害に関わらない繋がりには、これからの人生を歩む中で、心を豊かに出来る大きな要因の一つだからです。

1日、1ヶ月、1年、これからは、今までよりももっと早く過ぎていくでしょう。時々立ち止まって、時の流れの速さを振り返ってみて下さい。次に何をすべきかの指針を見いだせるかもしれません。

皆さんの健康とますますの発展をお祈りします。

Contributed by Mamoru Watanabe, Received April 3, 2014.